

7-7 兵庫県・神戸市・芦屋市・西宮市における短い測点間隔の水準繰り返し観測結果 (II)

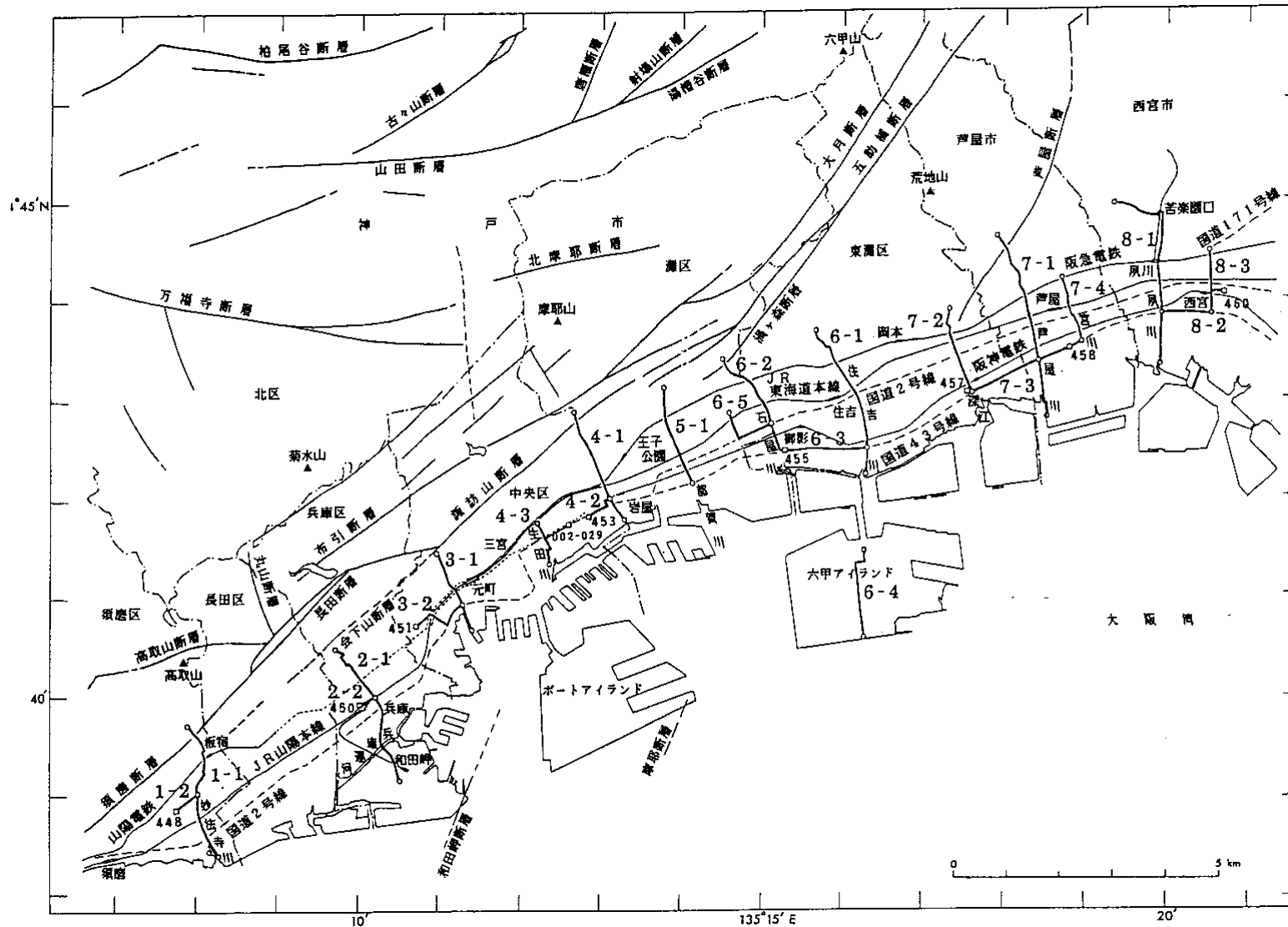
Level changes in Kobe, Ashiya and Nishinomiya cities, Hyogo Prefecture (II)

地質調査所
Geological Survey of Japan

平成7年兵庫県南部地震後の変動について、神戸市須磨区から西宮市に至る地域を対象に、約25mの短い測点間隔の水準繰り返し観測を実施した。第1図に、観測路線の位置を示す。第2図に、主な路線の1995年3月、7月、10月及び1996年2月の観測結果を示す。これらの上下変化量は、いずれも各地区毎の基準点（一等水準点）を不動とした場合の相対的变化量であり、同一の水準儀・標尺による観測の比較結果を示す。変化の分布には、下記のような傾向が認められる。

- ・ 路線1-1：1995年3月から7月までの期間、地点番号10付近を中心とする相対的隆起部が認められる。1995年7月から10月までの期間、この変化と逆相関する傾向の変化が認められ、海側で相対的に沈降。一方、1995年10月から1996年2月までの期間、地点番号50-70区間付近で、相対的に沈降。この区間から山側ではやや隆起。
- ・ 路線2-1：1995年3月から7月までの期間、地点番号30付近から海側で相対的に沈降。1995年7月から10月までの期間、全体として海側に向かって相対的に隆起量が大きくなる変化。1995年7月から1996年2月までの期間、地点番号35付近から海側及び地点番号66付近から山側で、相対的に隆起する変化。
- ・ 路線4-1：1995年7月から10月までの期間、全体として山側が沈降する変化。この変化の分布傾向に対し、1995年10月から1996年2月までの期間、山側が隆起する傾向。また、地点番号30付近で海側隆起、山側沈降のステップ状の局地的な変化が認められる。この場所は、反射法弾性波探査結果による伏在断層分布位置に対応する。
- ・ 路線6-2：1995年3月から7月までの期間、地点番号20付近を中心とする相対的隆起部が認められる。また、地点番号80付近より山側では、沈降。1995年7月から10月までの期間、海側でやや沈降。1995年10月から1996年2月までの期間、山側で変化量が大きく、地点番号56付近から山側で、局地的な変化が顕著になる。
- ・ 路線7-1：1995年3月から7月までの期間、海岸付近から地点番号93付近に向かって、隆起量が大きくなる変化。またこの地点付近からは、山側ほど隆起量が小さくなっている。1995年7月から1996年2月までの期間、地点番号93付近から山側ほど隆起量が大きくなる変化が認められる。

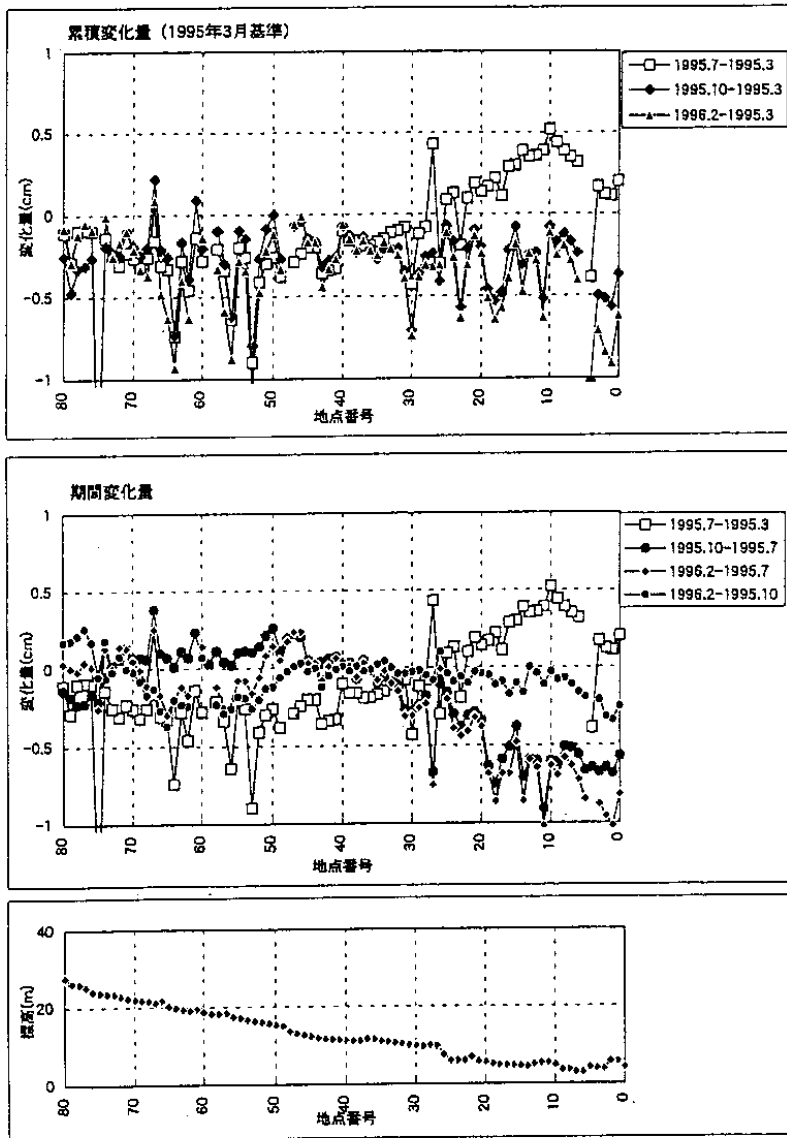
(遠藤秀典・渡辺和明・牧野雅彦・村田泰章)



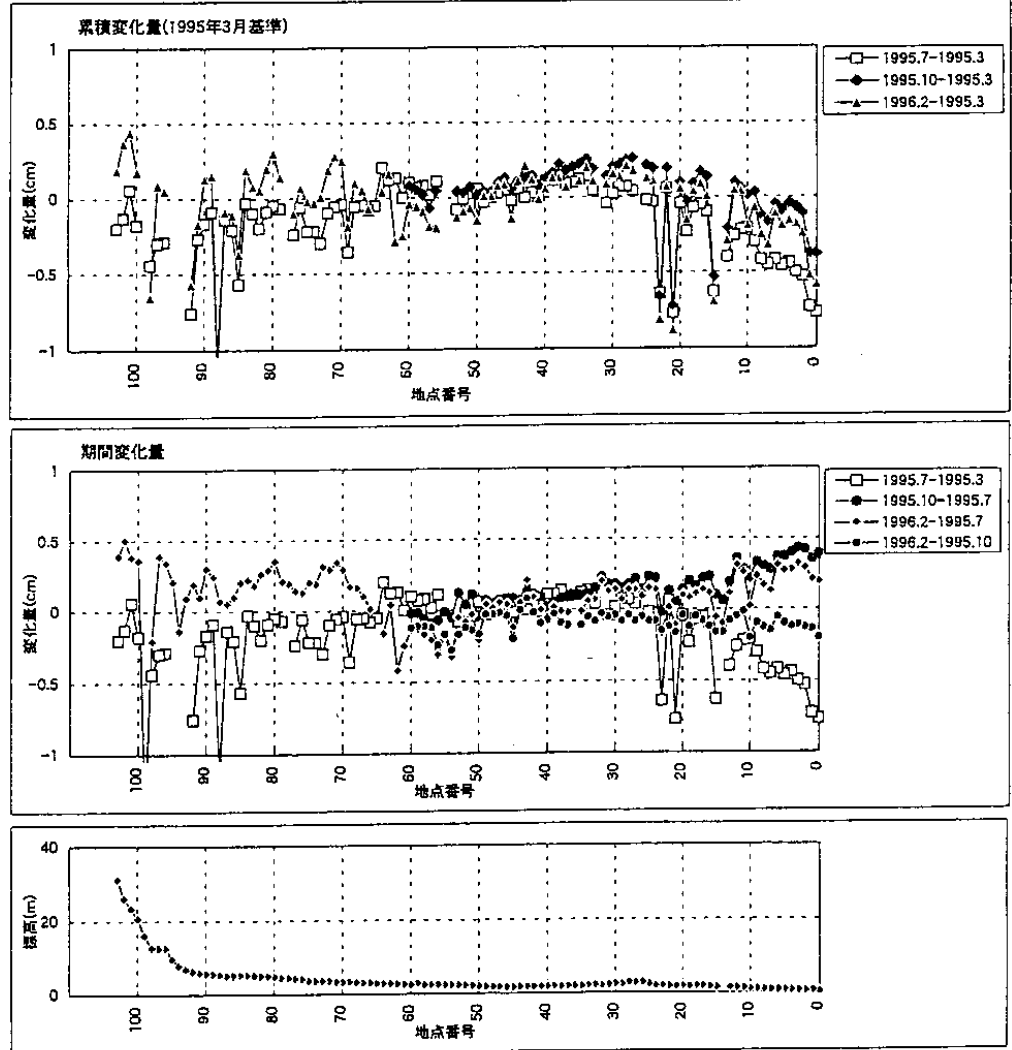
第1図 観測路線位置図

Fig. 1 Location of the observation lines.

路線1-1



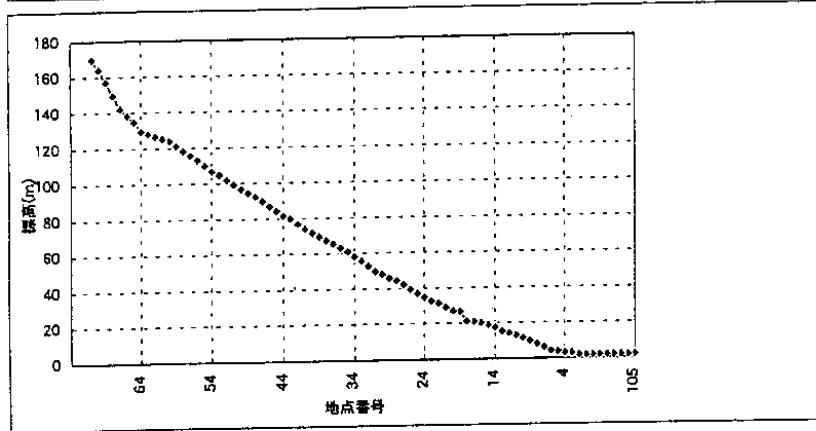
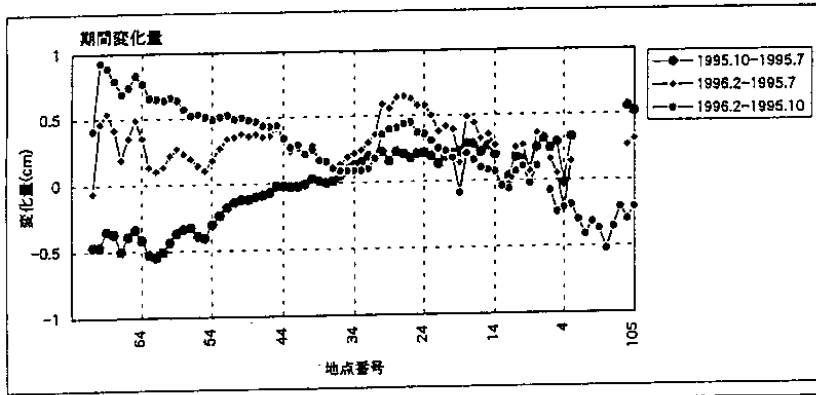
路線2-1



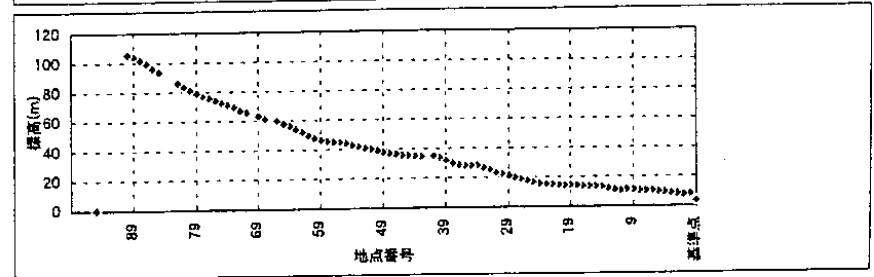
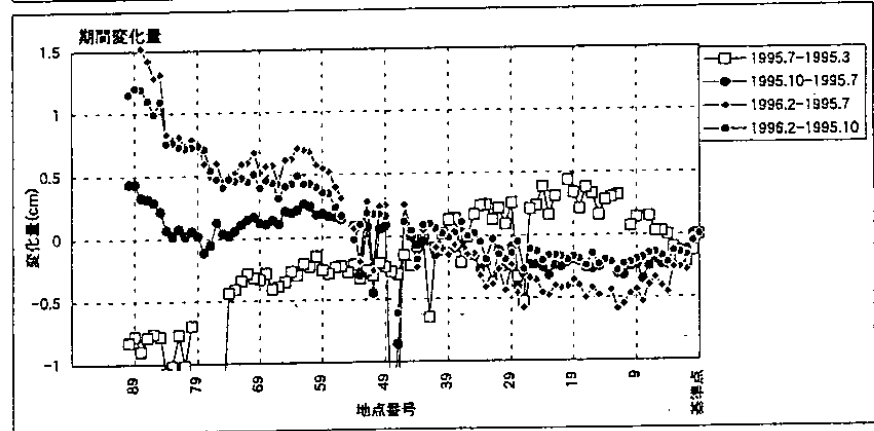
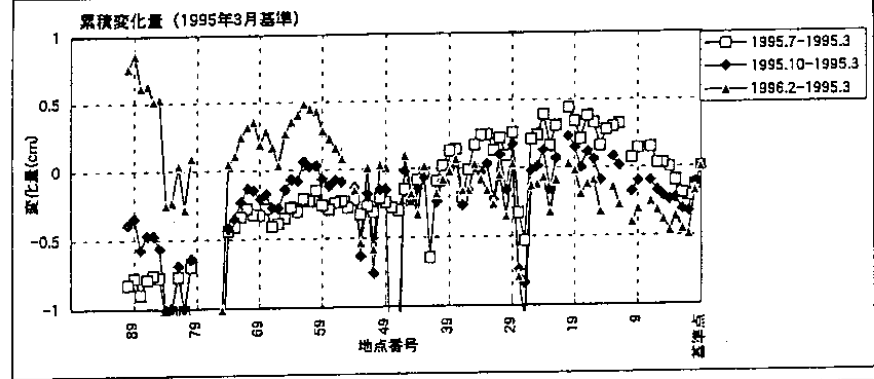
第2図 神戸市及び芦屋市における上下変化

Fig. 2 Level changes along the observation lines in Kobe and Ashiya cities.

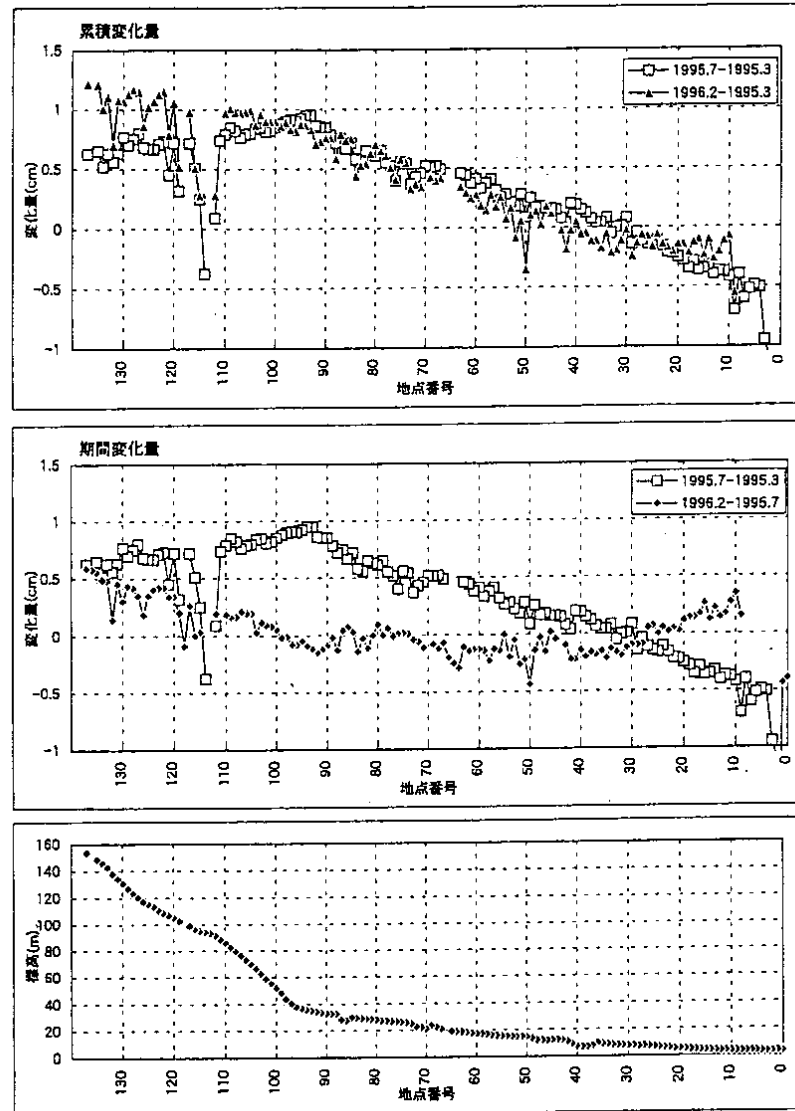
路線4-1



路線6-2



第2図 つづき
Fig.2 (Continued)



第2図 つづき
Fig.2 (Continued)